

アメリカでの素敵な一週間

私は一週間、記者としてアメリカに行ってきた。私の取材テーマは多文化で共生しているアメリカ人の気持ちを調査することだった。

多文化で共生するためにはどうすればいいと思いますか？

と私は十人くらいに聞くと、「知ること」という人が全員だった。

「時間はかかるけど、よく知っている人を嫌いになることはできないと思う。」

男性のこの言葉に感動した。

「よく知らない先生は嫌いになれるけど、親のことはうざいと思っても嫌いにはならないでしょ？」と笑顔で答えた。「だけど、知ろうとする心を育てるためには、親の教育を受けること、またその教育を自分の子どもにも伝えることそれが大事だ。」

黒人のカップルには次のような質問をした。

「もし黒人のグループと白人のグループがあったらどちらに加わりますか？」

「私は黒人という強い意志もないし、どの人種が優れているのかっていうのも考えない。だけれど人間は本能的に同じ見た目に行くと思う。それはどうしようもないと思う。」

取材した人々全員の言葉を聞いて、世界は優しい人で満ちていると感じた。

そして、トランプ大統領の移民制度についても尋ねてみた。

「今までアメリカを発展させてきたのはアメリカ人ばかりではない、アメリカの大企業を開始した人たちもほとんどが異国の血をひいている。みんな、より良い人生を求めてアメリカに来て

いるのにそれを制限するのはいけない。9.11 などのテロでイスラム教徒に警戒するのはわかるが、一部で全体を決めつけてはいけない。」

この方の話はまさに私が聞きたかったものだ。このように心に残る言葉をたくさん聞いた。

旅はこれだけではなかった。身近な驚きもたくさんあった。初日に行ったマックはなんと1ドルで飲み物は飲み放題、なんて素敵なんだろう！そして接客にも驚いた。コンビニの店員さんは隣の店員としゃべりながら、ガムを噛みながら私の方を一切見られず接客された。接客といえるのかもわからないが、日本ではありえないことに、アメリカ人は誰も顔に怒りを表してはいなかった。日本では店員が箸を入れ忘れるだけで店にクレームが来ます。(経験上)

このようにアメリカはいろんな意味で発展していた、そこを訪ねた自分も何かが発展したと思った。「とても」をいくつつけても足りない、ワンダフルな旅となった。